第 30 回日本小児泌尿器科学会学術集会・総会報告

金子 一成
第 30 回日本小児泌尿器科学会学術集会・総会会長
日本小児泌尿器科学会理事長
関西医科大学小児科学講座教授

この度，第 30 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会の会長として 2021 年 7 月 2 日（金）～4 日（日）の 3 日間，現地とウェブ配信のハイブリッド形式で開催しました。

当初は大阪国際会議場での開催を予定していましたが，新型コロナウイルスワクチンの「自衛隊大規模接種センター」に指定され使用できなくなったため，会場を大阪国際交流センターに変更しての開催となりました。また，大阪府に「まん延防止等重点措置」が発令中という逆風の中，107 名の現地参加と 370 名のウェブ参加があり，参加登録者数は 477 名（うち有料参加者数 456 名）に達しました。参加された皆様には，この場を借りて御礼申し上げます。

本学会の学術集会は，1992 年に第 1 回が開催されて以来，今回で 30 回を数えますが，大阪開催は 17 年ぶり 2 回目です。また，泌尿器科医，小児外科医，小児科医などの多職種の医療従事者を会員とする本学会の学術集会を小児科医が会長として開催させていただいたのは，過去 3 回しかありません。

そこで，小児科医らしいテーマにしたいと考え「小児泌尿器におけるオーダーメード医療」としました。私たち日本小児泌尿器科学会の会員は小児泌尿器疾患診療のスペシャリストである前に，小児医療に携わる者として，わが国の子どもを取り巻く環境を知り，個別のニーズに合わせた治療を提供したいという思いを込めたテーマです。

このテーマに沿って，国立成育医療研究センター理事長の五十嵐 隆先生には「子どもと家族を biopsychosocial に捉え支援する保健・医療を目指して：成育基本法を活用しよう」と題した基調講演をお願いしました。ご講演では「OECD 加盟 38 カ国中，わが国の子どもの身体的健康度は 1 位であるにもかかわらず，心の健康度は 37 位である」こと，「したがって心理的・社会的課題に直面する 10 歳台の子どもを評価・支援する仕組みの構築が喫緊の課題である」ことを訴えられました。さらに 2019 年に施行された「成育基本法」や創設が検討されている「こども庁」は，その課題解決に向けて追い風になる可能性を示唆いただきました（**写真❶**）。

❶ オンラインでのライブ講演の質疑応答の様子
スクリーン上の演者は基調講演を行ってくださった五十嵐 隆先生，質問者は野口 満先生（佐賀大学），座長は筆者。

特別講演では「ここまで来た腎臓の再生医学」と題した講演を熊本大学発生医学研究所腎臓発生分野の西中村隆一教授にお願いしました。ご講演では，究極の腎不全治療である腎臓再生の現状について，すでにヒト iPS 細胞からネフロン前駆細胞を経由して糸球体および尿細管を誘導できること，しかしながら再生医療として活かすために高次構造をもったヒト腎臓の作製を目指していることが紹介されました。

招請講演では，徳島大学大学院医歯薬学研究部産科婦人科学分野の岩佐 武教授に「生殖活動とキスペプチン」と題してご講演いただきました。2003 年に発見されたキスペプチンは，近年の研究成果から生殖行動の維持・促進にかかわることが明らかにされており，注目が集まっていることをご教授いただきました。

会長特別企画『小児泌尿器科疾患の基礎研究～集えリサーチマインドを持った若手医師たちよ！～』では，泌尿器科研究で多くの実績をあげられている 7 人の先生方から基礎研究の意義について熱く語っていただきました。「若手医師の研究離れ」が叫ばれる昨今ですが，彼らの心に響くものがあったと信じています。また，シンポジウム 1 では『小児泌尿器科領域の外傷・損傷』をテーマに，シンポジウム 2 では『小児泌尿器科疾患の発生と成長・発達』をテーマに，それぞれ 5 人の先生方に経験的，文献的知見を簡潔明瞭にまとめていただきました。若手のみならず，多くの会員の先生方の知識の整理に役立ったものと思います。

ワークショップでは『あなたならどうする』をキーワードに，「尿路感染症・VUR」と「水腎症・停留精巣・尿道下裂」への対応について pros and cons 形式で行いました。患者の個別の状況に合わせた様々な

治療上の工夫が紹介され，「治療に絶対的正解はない」ことを改めて理解させていただきました。

恒例の学会賞候補演題セッションでは，一次選考で選ばれた基礎部門の 2 演題，臨床部門の 5 演題，症例報告部門の 5 演題の口演発表が行われ，プレゼンテーション能力や質疑応答の内容を含めた項目について理事・監事が審査し，各部門の受賞者が決まりました（❷）。

その他，3 日間の会期中，小児泌尿器科教育セミナーやハンズオンセミナー，約 130 の一般演題，4 つの教育講演，2 つのランチョンセミナー，2 つのスポンサードセミナーを行いました。また，今回は役員改選の年にあたり，総会での承認を経て，理事・監事および評議員について，新旧役員が交代しました（❸）。理事長も筆者から林 祐太郎先生にバトンタッチされました。

コロナ禍でやむを得ず実施したハイブリッド形式でしたが，学術集会後に行ったアンケートでは，過半数（65%）の方が今後もハイブリッド形式での開催を望んでいることから，ポストコロナ時代はこの形式が基本となるかも知れません。

時節柄，新型コロナのクラスター発生を防ぐため，感染防止対策を徹底しました。具体的には会長招宴や会員懇親会は行わず，現地会場の座席間隔を空け，マスク着用での発表や質疑をお願いしました。そのため参加者にはご不便，ご迷惑をおかけしました。この場を借りてご協力に感謝申し上げます。

最後に本学術集会開催に向けて，東奔西走してくれた木全貴久医局長をはじめとする関西医大小児科教室員や専攻医，研修医諸君，3 人の秘書の皆様，そして運営業務を委託した PLANNING FOREST 社（代表取締役：大森啓次様）の方々に深謝いたします。また，多大なるご支援をいただいた関西医大小児科同門会（温仁会：木野 稔会長）の諸先生方にも厚く御礼申し上げます。

第 31 回学術集会は，山高篤行教授（順天堂大学小児外科・小児泌尿生殖器外科）を会長として 2022 年 7 月 20 日（水）～22 日（金）に東京の都市センターホテルで開催される予定です。次回こそは，懇親会を含めて現地で親交を温められる状況になっていることを期待して，報告を終えたいと思います。

❷ 表彰式での学会賞受賞者と学術集会会長，学術委員会委員長との記念写真
左から筆者（会長），西尾英紀先生（名古屋市立大学小児泌尿器科学：症例報告部門学会賞受賞），赤川友布子先生（関西医科大学小児科学：臨床部門学会賞受賞），赤川翔平先生（関西医科大学小児科学：基礎部門学会賞受賞），佐藤裕之先生（東京都立小児総合医療センター泌尿器科・臓器移植科：学術委員会委員長）。

❸ 日本小児泌尿器科学会の新旧の理事と監事の集合写真
前列：左から吉野 薫先生（あいち小児保健医療総合センター泌尿器科），野口 満先生（佐賀大学泌尿器科学），宮北英司先生（東海大学大磯病院泌尿器科），筆者，林 祐太郎先生（名古屋市立大学小児泌尿器科学），山高篤行先生（順天堂大学小児外科・小児泌尿生殖器外科），宋 成浩先生（獨協医科大学埼玉医療センター泌尿器科・小児泌尿器科），三井貴彦先生（山梨大学泌尿器科学）。
後列：古賀寛之先生（順天堂大学小児外科・小児泌尿生殖器外科），小川哲史先生（虎の門病院小児科），世川 修先生（東京女子医科大学小児外科），矢内俊裕先生（茨城県立こども病院小児外科・小児泌尿器科），米倉竹夫先生（近畿大学奈良病院小児外科），小島祥敬先生（福島県立医科大学泌尿器科学），池田裕一先生（昭和大学藤が丘病院小児科），木下義晶先生（新潟大学医歯学総合病院小児外科），杉多良文先生（兵庫県立こども病院泌尿器科）。なお 長谷川奉延先生（慶應義塾大学小児科学）はウェブ参加。